

vol. 2322

【発行】大分県高等学校教職員組合教宣部 大分市大字下郡496-38 大分県教育会館
TEL / (097) 556-2838 FAX / (097) 556-8998 MAIL / ohtwu@view.ocn.ne.jp

大分県高教組情報

【発行者】大野 真二 【印刷】(株)佐伯コミュニケーションズ 【売価】30円(組合員の購読料は組合費の中に含んで徴収しています)



今号の掲載内容 (掲載順)

- 大分高教組 第116回定期大会
- 能登半島地震災害救援ボランティア報告

大分高教組 第116回定期大会

と き: 6月15日(土) ところ: 大分県教育会館多目的ホール

高教組第116回定期大会を実施しました。教育をめぐる諸課題や、多忙化の厳しい状況など、活発な討論が行われました。各議案は賛成多数で全て成立し、2024年度の運動方針を確立しました。

山崎俊一日教組書記次長をはじめ、26名の来賓をお招きし、9時30分に開会しました。福田洋平副委員長の開会宣言に続き、議長団に野口豪

さん(別府支部・別府翔青)、衛藤正男さん(現業職組・久住高原農業)、堤浩史さん(佐伯支部・佐伯鶴城)、議事運営委員に清原満さん(国速杵

支部・日出総合)、畑野新司さん(中津支部・中津北)、堀田文雄さん(大分西部支部・由布支援)、足達明広さん(久大支部・日田支援)、八木聡子さん(臼津支部・津久見)を選出し、議事に入りました。

議長団: 左から 堤さん、野口さん、衛藤さん

議運: 前列左から 清原さん、八木さん、堀田さん、後列左から 足達さん、畑野さん

大野執行委員長あいさつ(骨子)

今次大会を前にした分会訪問で、本部執行委員が手分けをして各分会をまわり、組織としての課題や分会独自の課題について、組合員と協議しました。各分会に共通している課題として、「忙しくて集まる機会を持ってない」ことが挙げられました。学校の「働き方改革」が進まない中、5月に発表された中教審特別部会の「審議のまとめ」には、わたしたちが求めている給特法の廃止あるいは抜本的見直しは提言されませんでした。労基法を制限する給特法体制を維持するためか、文科省は教育職を「高度専門職」と定義しました。しかし、わたしたち教職員が勤務について自分の裁量を活かせる場面はほとんどありません。

余裕を失っている学校現場では、教員の主業務である授業にむける時間がありません。わたしたちが本当に求めているのは、超勤に見合う残業手当ではなく、「定時で帰れる職場」です。定年引き上げが始まり、今年度はじめて、60歳を超えた現役職員が働いています。しかし、今年度4月、60歳を区切りとして退職した教職員が予想以上に多くいました。現状でも多忙を極めている学校現場で、賃金が7割に切り下げられても、仕事量が変わっていないことが原因の一つであることは間違いありません。

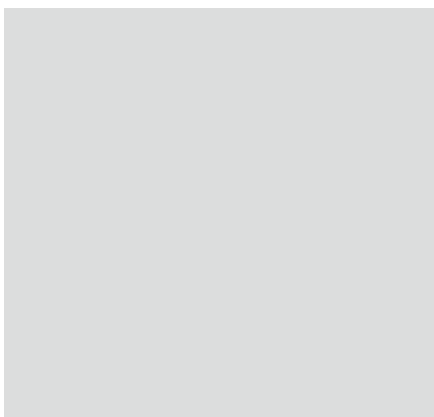
平和と民主主義の危機です。国際的な紛争によって、多くの尊い人命が失われています。最たるものはロシアのウクラ

イナ侵略と、イスラエルのパレスチナ侵攻ですが、それ以外にもアジア、アフリカでの局地的な紛争が起こっており、今この時点でも戦火におびえながら生活している人々が世界中にいます。わたしたちが求めるべきものは世界中の軍事衝突すべての即時停戦です。しかし、紛争の解決にむけ軍事力の強化を議論する勢力があり、残念ながら日本国政府もその立場をとっています。私たちの暮らす大分でも、「敵基地攻撃能力」保有のため、敷戸に弾薬庫が増設されていますし、日出生台での日米共同軍事演習が今年も計画されています。国民の豊かな暮らしをつくろうとせず外敵から国を守ろうという現在の政府の施策、莫大な軍事費で守るのが、困窮している国民の生活であっては全く本末転倒です。

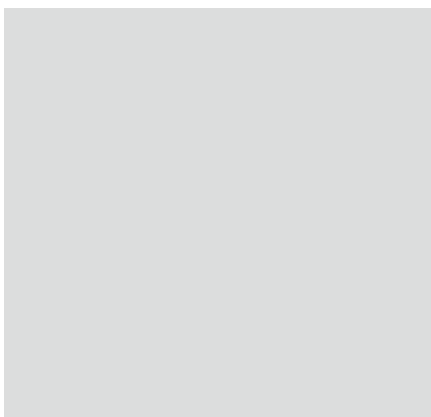
解散総選挙も迫ってきました。現政権に対する反対の意思を明確に示しましょう。平和な社会実現のため、そして、よりよい教育のため、わたしたちの学校職場の改善のためにも、わたしたちと同じ考え方で進む議員を国会に送りましょう。

わたしたちのとりくみは、教育内容、教職員の勤務、平和で民主的社会の実現など多岐にわたります。課題解決は容易ではありません。今次定期大会で、それぞれの現場の状況をふまえた討論で、解決の道を探り、高教組運動の前進に一丸となってとりくみましょう。

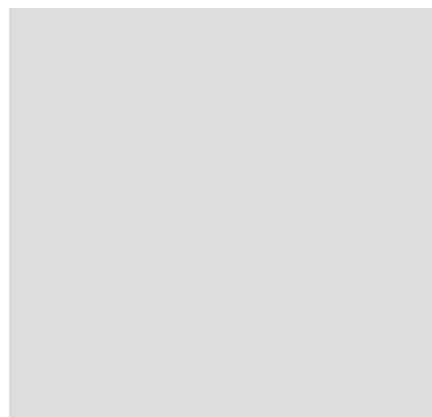
ご挨拶をいただいたご来賓の方々（挨拶順）



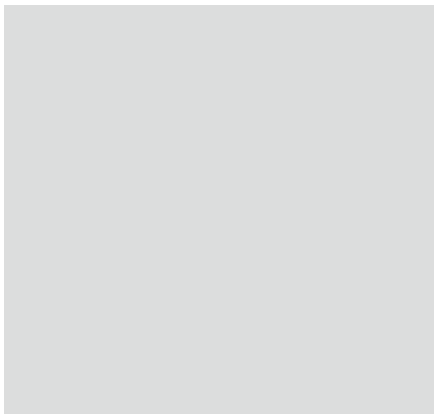
山崎俊一 日本教職員組合書記次長



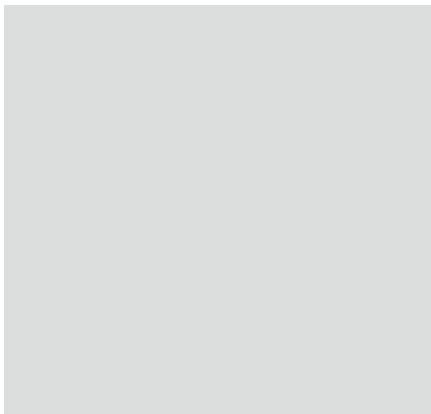
大和孝司 大分県教育委員会教育次長



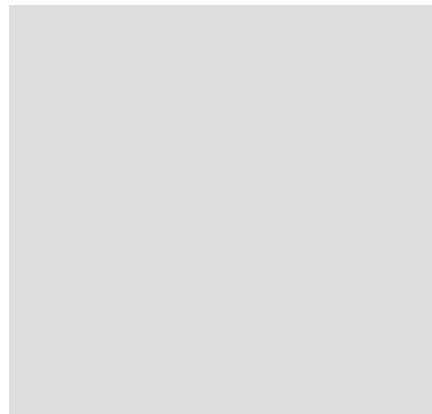
吉田忠智 立憲民主党大分県総支部連合会
代表



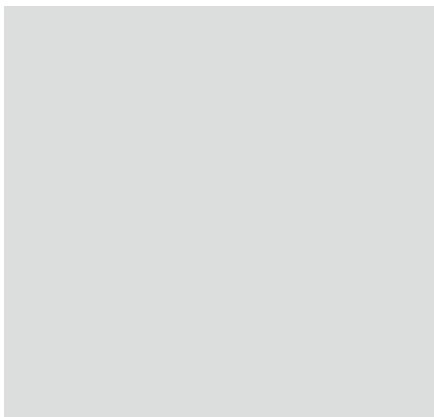
石本健二 日本労働組合総連合会
大分県連合会会長



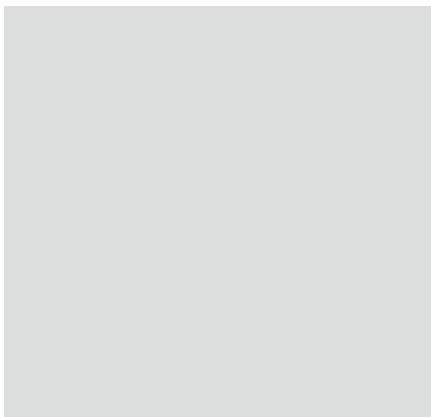
吉良州司 衆議院議員



佐藤俊生 大分県平和運動センター事務局長



吉川元 衆議院議員



水岡俊一 参議院議員（ビデオメッセージ）

— 御来賓の方々 — (敬称略)

| | | | |
|-------|------------------------|-------|----------------------------------|
| 山崎 俊一 | 日本教職員組合書記次長 | 那賀 久資 | 自治労大分県職員連合労働組合／自治労大分県職員労働組合執行委員長 |
| 山田 雅文 | 大分県教育委員会教育長(大和孝司 教育次長) | 藤田 一樹 | 大分県人権・部落差別解消教育研究協議会会長 |
| 石本 健二 | 日本労働組合総連合会大分県連合会会長 | 麻生 雅晴 | 大分県労働者福祉協議会専務理事 |
| 佐藤 俊生 | 大分県平和運動センター事務局長 | 佐藤 寛人 | 九州労働金庫大分県本部本部長 |
| 吉川 元 | 衆議院議員 | 塩月 裕市 | 大分県勤労者医療生活協同組合専務理事 |
| 吉良 州司 | 衆議院議員 | 松本 章 | 部落解放同盟大分県連合会書記次長 |
| 吉田 忠智 | 立憲民主党大分県総支部連合会代表 | 白 一秀 | 在日本朝鮮人総聯合会大分県本部委員長 |
| 水岡 俊一 | 参議院議員(秘書 濱田和彦) | 江口 善直 | 大分県教職員互助会事務局次長 |
| 久原 和弘 | 社会民主党大分県連合代表 | 横道 信哉 | 教職員共済生活協同組合大分県事業所所長 |
| 高野 博幸 | 大分市議会議員社会民主党大分県連合副幹事長 | 河野 宏明 | 明治安田生命保険相互会社九州沖縄公法人部法人営業部長 |
| 和田 俊二 | 大分県高等学校PTA連合会会長 | 梶原 悟 | 大分県高等学校退職教職員協議会会長 |
| 宗安 勝敏 | 大分県教育会館理事長 | 瀬尾 彰一 | 大分県高等学校生活協同組合専務理事 |
| 岡部 勝也 | 大分県教職員組合執行委員長 | | |
| 溝口慎一郎 | 自治労大分県本部執行委員長 | | |

質疑応答・意見・討論 (要旨抜粋)

第2号議案～5号議案に対する質疑応答

▶▶ 質 疑 ◀◀

《第3号議案 2023年度運動の総括に関する件》

4. 働きやすい民主的な職場づくりのとりくみ

由布支援：春闘交渉でのハラスメント相談窓口についての教育長の発言について、その後、問い質したのか。

回答：問い質しはしていない。県教委は人事管理監が窓口となっている。高教組も窓口をおいている。

5. 民主的な人事行政を確立するとりくみ

大分西：3年目での異動が多い。交渉でも訴えたが、変更の余地はあるのか。組合として把握はできているのか。
中津北：沖縄県から転動してきた方の話では、沖縄は内々示が残っているとのこと。人事総括として、どのように考えているか。

回答：改善は求め続けている。60歳を超えた方の異動ルールなども、対応を考えていきたい。達成率が出されているが、何を

もって達成というのか明確でない。人事異動については検証が難しい面があるが、組合でのとりくみの成果をどのように伝えていくかも含めて執行部で議論していく。

7. 単組・専門部のとりくみ

大分西：集団献血について。生徒にどのように話をしていけばよいか。アドバイスをお願いしたい。

回答：献血そのものに反対しているわけではない。学校に医療を持ち込むことに対する反対。なぜ、学校での集団献血が進められているのか、どのような課題があるのかについて学習を深める機会としてもらいたい。

中津北：分会内の人数が減っているなかで、女性部の活動への参加が難しくなっているとの声がある。対応は考えているのか。

回答：改善にむけた話し合いが始められたところ。

▶▶ 意見・討論 ◀◀

《第3・4号議案》

1. 民主教育を守り発展させるとりくみ

大分西：外国にルーツをもつ子どもが増えている。国籍がネックで奨学金を受けられない。勉強会等を組合で実施することを検討しては。

大分西：大学卒の離職率を把握すべきでは。単に高校の出口の結果を求めないでほしい。

由布支援：特別支援学校では小中学部の生徒数が増えてい

る。大分県第3次特別支援教育推進計画についてパブリックコメントを求めている。実情・課題を伝える機会として活用してほしい。

日田：遠隔授業について進められているが、評価を誰がどのようにするのか、教育課程を合わせなければいけない等、課題が山積している。

2. 教育条件整備 定数増のとりくみ

由布支援：寄宿舎教師について10年以上採用試験がなく、臨時職員数は正規職員を上回る状況になった。

由布支援：タブレット端末は支援学校高等部の生徒は貸与ではなく、各自で購入しなければならない。そのような対応は、九州各県では大分県のみである。

爽風館通：通信制の生徒もタブレットの貸与がない。

爽風館通：県立高校の体育館にエアコンが導入されるが、稼働の権限を学校裁量にしてもらいたい。

爽風館通：通信制では、1人の教員が100名を超える生徒を指導するなど、教育環境が劣悪な状況である。

大分西：タブレットについて、各自で準備することになっているが、通信環境がないなど、教育格差を生み出すことになっている。県、県教委が責任をもって調査、対応してほしい。

大分工：大規模校ではタブレット端末が故障することが多く、担当になると多忙になる。

4. 平和と民主主義を守り発展させるとりくみ

宇佐支援：高校生平和大使募集に今年度は12人と例年より多くの応募があった。3月に大分で高校生平和サミットが開催される。多くの高校生に集まってもらいたい。

5. 労働基本権確立、職場の民主化のとりくみ

大分西：ICT化が進められているが、担当にかなり負担がかかっているのではないかと。問題が起きた後、研修が行われていない。

爽風館通：各学校の年齢構成がまちまちである。爽風館通信制は再任教員が多く、根平均年齢が高い。通信制の業務に慣れずに苦勞している。

爽風館通：60歳で希望せず異動した方がいる。改善を求めたい。

総括討論

由布支援：不断の努力が必要。「家族の看護休暇」の必要性の訴えかけが実った。まだまだやらないといけないことがある。

日田定：県が夜間中学を宣伝したので見学した。希望者が2名。定時制・通信制・分校にも馴染めない子もいる。国が本気で考える時期。高教組がたたき台を県教委に伝えてほしい。

中津北：来賓が全員男性だった。多様性は本当に考えられているのだろうか。教室にはいろいろな立場の生徒がいる。教員は誰でもできる仕事とは思っていない。それを自覚し、若い世代に伝えていくことがあると思っている。

全国定通体育大会参加者旅費補助費贈呈式・職場新聞コンクール表彰式

全国定通体育大会参加者旅費補助贈呈式と職場新聞コンクール表彰式を行いました。

★全国定通体育大会参加者旅費補助贈呈式★

全国定通体育大会参加者旅費は、働きながら学ぶ生徒の実情を考えれば、県費負担であるべきと要求し続けていますが、実現していません。そこで高教組は、主任手当拠出金を財源として補助を行っています。今年度は県内の定時制・通信制全5分会へ贈呈しました。

★職場新聞コンクール★

4団体の応募がありました。組織強化の観点から、情報共有する役割は極めて大きいものがあります。来年度は参加団体が増えることを期待します。

最優秀賞 日田定時制分会「共研」

優秀賞 中津北分会「高教組中津北分会だより」

優良賞 大分工業分会「DAIKO分会通信」

優良賞 養護教諭部「養教だより」

大会スローガン、大会宣言、特別決議 採択

大会の最後に、大会スローガン、大会宣言、特別決議が、大会宣言起草委員の武藤裕一さん（宇高支部・高田分会）、牧久美子さん（大分東部支部・鶴崎工業分会）、多田政友さん（豊肥支部・三重総合分会）、三浦大輝さん（大分中央支部・大分上野丘分会）により提起され、賛成多数で採択されました。

多くの皆さんの協力で、大会は盛会のうちに終わることができました。ありがとうございました。

能登半島地震災害救援ボランティア報告

6月9日(日)～15日(土) 石川県珠洲市
7月12日(金)～15日(月) 石川県輪島市

◆ ボランティア報告 ◆

私の住む大分県別府市から特急と新幹線を4本乗り継いで6時間半かけて金沢駅に到着。ここからベースキャンプ（宿舎）のある七尾市和倉温泉までバスで2時間。さらに毎日、活動地の珠洲市ボランティアセンターまでバスで2時間。能登半島の大きさを実感しました。

4月から始まった連合ボランティアは今回で第12クール。週替わりで全国から支援に入っています。連合傘下の基幹労連、JP労組、交通労連、生保労連など、全国から集まった様々な職種の組合員57名。その内日教組は北海道、山形、日教組本部、大阪、三重、三重高、兵庫宝塚市、大分高の8名でした。

4人一組になり軽自動車に乗り込んで珠洲市内を周り一軒一軒、生活の困り事やボランティアの依頼内容を聞き取っていきましたが、珠洲市の被害の大きさと生活再建の難しさは想像を超えていました。地区のほとんどが市外に避難して住民の居ない集落、いまだに水道が通じておらず沢の水をパイプで数百m引いて生活している家、崩落した

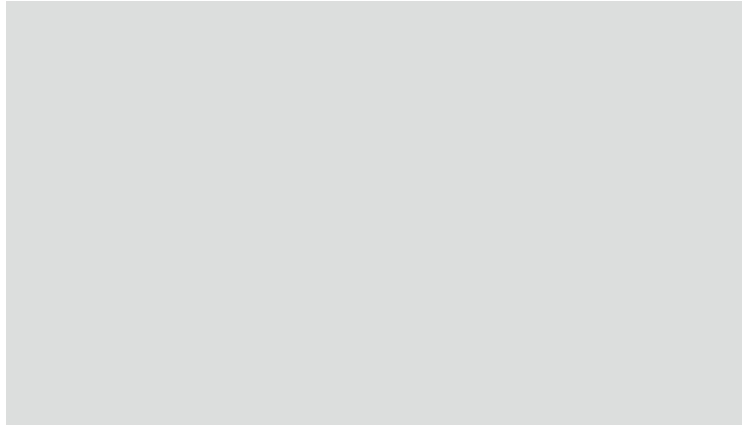
まま手が付いていない車庫とつぶれたままの自動車。昼間は家で生活し、夜は（地震が怖いので）ビニールハウスで寝るといふ方などなど。穏やかで美しい日本海との対比があまりに違い、ショックの連続でした。

地震から半年近くが過ぎようとしているのに未だにこの状況。被害が大きすぎて、能登半島は復興、再建という段階にはまだまだとても追いついていないというのが実感でした。しかし僕

たちを含め、多くの方のほんの僅かな活動の積み重ねや寄付がその一歩になると信じます。

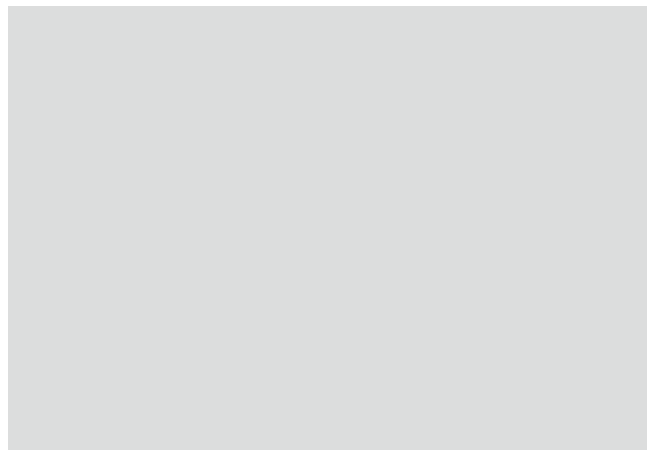
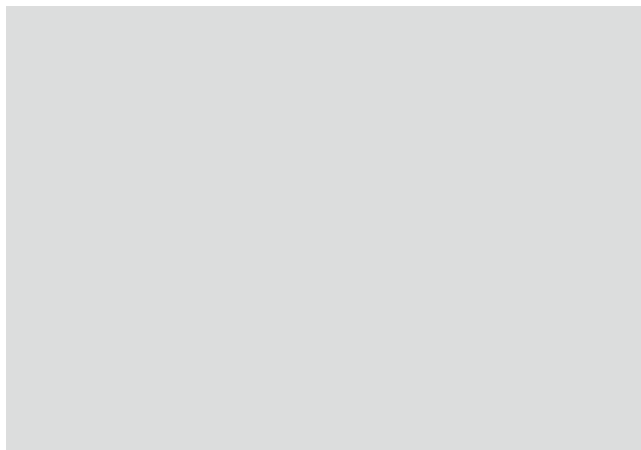
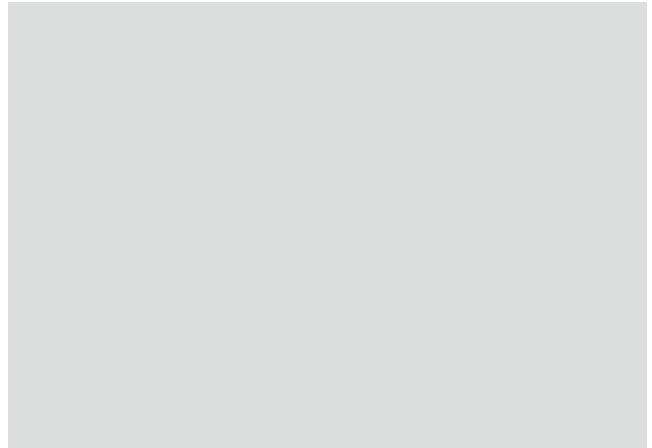
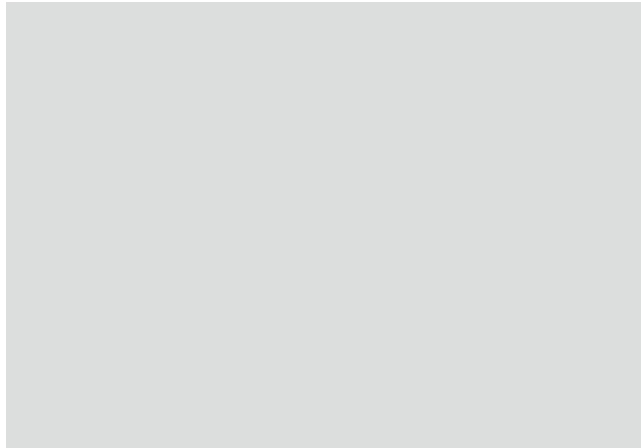
全国から集まったまさに「同志」たちとの7日間は組合員の力強さと連帯を改めて実感した時間でした。私のような退職組合員を派遣してくれた日教組、大分県高教組に心から感謝申し上げます。個人では絶対にできません。労働組合偉大です！

(退職組合員 栗林裕之)



輪島市の現在の様子を目の当たりにし、自然の怖さと人間の無力さに呆然としました。社会福祉協議会からの依頼で、様々な困りを聞き取るニーズ調査を行いました。しかし、「ご苦労様です」と逆に声をかけられ、何とも言えない気持ちでした。復興にはまだまだ時間がかかる気がしますが、被災された方たちは、前を向いて生活をしています。もしかしたら、自分たちも被災することが今後あるかもしれません。助け合いの大切さや人の温かさを改めて感じたボランティア活動でした。

(別府翔青 林田健吾)



一日も早い復興をお祈り申し上げます。
高教組では、災害ボランティア派遣の要請に応えるため、
災害ボランティア登録を受け付けています。